

教育と文化



「自分らしくありたい」という気持ちを大切に

一人一人の違いを認め、

尊重しましょう。

● 問合先 男女協働推進課

男女協働推進係 ☎2115

昔、ランドセルの色と言え
ば、男の子は黒色、女の子は
赤色の2色で分けられていま
した。最近のランドセルは、
ピンク系やパープル系、ブラ
ウン系、ブルー系など、カラ
バリエーションが豊富で、さ
まざまな色のランドセルを背
負った子どもたちを見かける
ようになりました。色が増え
たことで、子どもたちが自分
の好きな色を選べるようにな
りました。

あなたは、「女だから」「男
だから」とか、「女らしく」「男
らしく」と言われ、性別で区
別されることに、違和感を覚
えたことはありませんか。ま
た、あなた自身が、性別に関
する思い込みや偏見を持って
いませんか。

例えば、男の子だから黒や
青、女の子だから赤やピンク
など、持ち物の色を決めたり、
男の子らしく短髪、女の子ら
しくスカートなど、髪形や洋
服を決めたりすること。これ

らは、性別に関する思い込み
や偏見です。

女の子だって、男の子だっ
て、好きな色も髪形も洋服も、
一人一人が違う好みや考え方
を持つています。また、得意
なことや苦手なことも一人一
人違います。

大人が無意識に、子どもた
ちを、「女だから」「男だから」
という枠の中に当てはめてし
まうことは、子どもたちの自
分らしくありたいという気
持ちや行動に、影響を与える
ことがあります。

子どもたちが、性別にとら
われることなく、自分らしく
生きられるように、家庭でも、
学校でも、地域でも、子ども
たちの一人一人の違いを認め、
尊重しましょう。



郷土の文化財

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎3186

明治維新150年記念事業を行います

今年には明治維新から150
年目の節目の年です。世界
に目を向け、日本の近代化
の先駆けとして突き進んだ
肥前では、鍋島直正や大隈
重信ら八賢人と呼ばれる偉
人を輩出しています。

激動の時代は伊万里にも
影響を与え、一時的に伊万里
県が設置された時期もあり
ました。また、強い志を持
ち郷土に大きな影響を与え
た先人たちが数多くいます。

森永製菓を創立した森永
太郎をはじめ、佐賀銀行
の前身である伊万里銀行を
設立した松尾貞吉、儒学者
草場佩川の長子で私塾『啓
蒙舎』をひらいた草場船山
など、多種多彩の先人たち
が伊万里から輩出されてい
ます。

この記念の年に伊万里市
郷土研究会が主体となって、

彼らの足跡や遺品などの調
査を行い、その成果を『幕末・
明治と伊万里の人』展とし
て歴史民俗資料館で11月
平成31年1月に展示する予
定(※)です。
展示を通して、激動期を
駆け抜けた偉人たちの志や
魅力に触れてみませんか。

※この事業は、明治維新150年
記念さが維新交付金を活用して進
めています。

1868 2018

肥前さが
幕末維新博覧会

Hizen Saga Bakumatsu-Meiji
Restoration Expo

↑佐賀市内エリアを中心に県内全域で平
成31年11月14日(月・祝)まで開催中